

SciREX サマーキャンプ 2018 募集要項

2018年6月6日

政策研究大学院大学

科学技術イノベーション政策プログラム(GIST)

1. 趣旨

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業(SciREX 事業)では、平成23年度に「総合拠点」(政策研究大学院大学)及び「領域開拓拠点」(東京大学、一橋大学、大阪大学/京都大学、九州大学)が設置され、客観的根拠に基づく政策形成に携わる人材や、「科学技術イノベーション政策のための科学」という新たな研究領域の発展の担い手となる人材、政策と研究をつなぐ人材を育成するとともに、関係する基盤的研究を推進するための国際的な水準の研究・人材育成を進めています。

拠点間連携の一つの取組として、各拠点の教員や学生が一同に参集し、各拠点の取組をお互いが理解し合うとともに、共通のテーマでの討論、成果の共有、異分野交流などを行う場として、毎年、「サマーキャンプ」を実施し、ネットワーク形成に取り組んでいます。2018年度も以下の通り、開催することになりましたので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

2. 学習の狙い

- 全拠点の学生や教員が一堂に参集し、共通のテーマでの討論や成果の共有、異分野交流などを行い、ネットワークを構築します。
- 多様なバックグラウンド・視点を持つ参加者と将来ビジョン・シナリオを議論することにより、科学技術イノベーションと経済、社会の関わりを大局的かつ多層的な視点から学びます。
- 複数の将来ビジョン・シナリオを共有した上で、テーマごとに、政策担当者や実務家へのヒアリング等を行ない、エビデンスに基づいた具体的な新規政策プランの作成を実践的に行います。

3. 全体テーマ

2030年の社会と科学技術イノベーション

4. 概要

日時	2018年8月28日(火)～8月30日(木)
会場	政策研究大学院大学 http://www.grips.ac.jp/en/about/access/
宿泊	ホテルアジア会館 http://www.asiacenter.or.jp/
言語	<p>【全体セッション、グループワーク最終発表】</p> <p>日本語から英語の通訳がつきます。(話者が英語を使用する場合、日本語への通訳はありません。)</p> <p>【グループワーク】</p> <p>(1)日本語のみのグループ、(2)日本語／英語のグループに分かれます。</p> <p>(2)日本語／英語のグループは、留学生がいる場合は基本的に英語での議論になりますが、必要に応じて日本語を使用いただいて構いません。</p> <p>日本語が使用されたときには、スタッフが日本語から英語に通訳します。</p> <p>※学生の方は、英語での議論の可否について登録フォームよりお選びください。グループ分けの際に参考にさせていただきます。</p>
参加費	<p>無料(会場までの旅費、宿泊費は拠点大学が負担)</p> <p>ただし、交流会費、食費は自己負担。</p>
交流会費	<p>教職員 5,000 円、学生 2,000 円(交流会はプログラムの一環であり、全員参加です)</p> <p>※交流会費は参加登録フォームよりクレジットカードにて事前にお支払い下さい。なお、クレジットカードでのお支払いができない場合は各拠点大学事務局に事前にお支払い下さい。</p>
参加登録方法	<p>各拠点大学の事務局よりご案内がある登録フォームよりご登録ください。</p> <p>なお、グループ選択は希望制になりますが、グループ構成上、ご希望に沿えない場合があることを、予めご了解ください。</p>

5. タイムテーブル

	8月28日(火)	8月29日(水)		8月30日(木)
午前	10:00-12:00 プレセッション(自由参加)	朝食【アジア会館】		朝食【アジア会館】
	12:30～受付 ※昼食は各自	9:00 集合 9:00-14:00 グループワーク グループごとにサイトビジット等 ※昼食はグループごと		9:00-12:00 グループワーク
午後	13:00-13:15 開会式			12:00-13:00 昼食(弁当支給)
	13:15-14:00 オリエンテーション SciREX事業紹介 参加者紹介 全体説明等			13:00-16:00 最終発表会
	14:00-16:00 全体セッション	14:00-16:30 グループワーク	14:00-16:20 教職員会合	
			16:20-16:30 移動	
	16:00-16:30 休憩	16:30-18:00 中間発表会		16:00-16:30 閉会式 表彰 総合講評、閉会挨拶
16:30-18:30 グループワーク				
夜	18:30-20:30 懇親会 ポスターセッション	18:00-19:00 夕食(弁当支給)		16:30 解散・帰宅
	20:30- 自由時間	19:00- 自由時間		

● プレセッション

各拠点大学・関係機関との共同のもと編集している「科学技術イノベーション政策の科学」のコアとなる内容から、いくつかのトピックを取り上げて紹介します。自由参加ですが、奮ってご参加ください。

〈トピック例〉

- なぜイノベーションが起こるのか？
- STI のリスク・マネジメント、ガバナンスの課題とは？
- 社会は将来の科学技術に何を求めるか？
- STI 政策評価の現状と課題
- 交流会は 8 月 28 日(火)18:30 より政策研究大学院大学1階、カフェテリアにて開催。
- 2 日目・3 日目の朝食はホテルロビーフロアのレストランにてバイキング形式。
- 2 日目の昼食は各自(自己負担)。
- 2 日目の夕食、3 日目の昼食はお弁当を提供。

6. グループテーマ

グループ A 科学技術イノベーションの基盤	
A-1 基本計画	
テーマ	10年後の第8期科学技術基本計画に向けたエビデンス構築
概要	日本の科学技術イノベーション政策は、5年ごとに作成される科学技術基本計画を基本政策としている。現在と同様に考えれば、2030年には第8期科学技術基本計画が策定・実施されることになる。しかし、現在の基本計画の策定やそのフォローアップにおいては「既に収集されており、すぐに使える」データを中心に検討がなされがちであることも実情である。そのため、本テーマではまず、基本計画の中でも、特に研究開発力やそれを支える体制や人材等の基盤的状况について、10年後にどのような課題が生じるかのシナリオを検討し、それに対して長期間の蓄積が望ましいデータ等のエビデンスを識別し、早期の測定開始を政策提言することを目指す。また様々な状況の兆しや構造を把握しうるデータや、現時点の政策・施策が長期間後に効果を生んでいるかを追跡するためのデータを提案することを目指します。
キーワード	科学技術基本計画、研究開発力、研究基盤、人材、エビデンス構築
使用言語	日本語／英語

グループ A-2 大学	
テーマ	2030年の日本の大学像と需要の予測
概要	2030年の大学は今とはどのように異なるかを構想し、その需要量(学生数、研究者数)を可能な限り定量的に予測する。たとえば、10年後には大学は誰に対していかなる方法で知を伝達しているか、知はどのように創造されているか、大学とその他組織との関係はどのように変化しているか等の視点から社会における大学という組織の機能の変化を検討した上で、大学を必要とする需要者層ごとにそれぞれの規模を推定する。その際、需要層の性質によっては、国際的な競争関係や今後10年の科学技術の進歩によって生じる教育ニーズの変化にも注目する。なお、創造的な活動ができるよう、各人が個人単位または少人数単位でテーマを自発的に設定し予測した上で、最終的にいくつかのシナリオの集合として結果を示すこととする。楽観的な未来、悲観的な未来、統計から予測される未来、不連続な未来のいずれでもよい。
キーワード	需要予測、高等教育、大学の役割
使用言語	日本語／英語

グループ B 科学技術イノベーションと経済・社会的課題	
B-1 エネルギー	
テーマ	2030 年エネルギーミックスの実現を考える
概要	地球温暖化問題に対応して世界レベルで温室効果ガスの削減が求められる中、日本では福島での事故以来、原子力発電所の稼働が困難となった。そこで政府は、太陽光発電を中心に再エネの普及を急速に進めてきたが、再エネは未だ経済的な電源とはなっていない。経済産業省が 2015 年 7 月に決定した「長期エネルギー需給見通し」では、2030 年時点のエネルギーミックスを、火力で 56%、原子力で 20-22%、再エネで 22-24%と決定しているが、原子力の再稼働は不確実で、FIT に頼った再エネの普及は効率性を阻害す危険性がある。かといって火力を増やすことが許される状況にはない。日本は、エネルギーの安定供給、温室効果ガスの削減、効率性の確保という 3 つの課題を同時に解決する適切な方法を見いだせてはいないのが現状である。本グループでは、これら 3 つの課題を解決し、日本が効率的な低炭素社会に移行するためにできることを、政策、社会システム、産業競争力、企業行動などの観点から議論する。
キーワード	2030 年エネルギーミックス、温暖化対策、再エネ、低炭素社会、効率性、産業競争力、社会システム
使用言語	日本語／英語

B-2 宇宙	
テーマ	日本の宇宙政策—2025 年以降の国際宇宙ステーション (ISS) と宇宙探査—
概要	日本は、「国際宇宙ステーション (ISS) 計画」に 1980 年代からその前身の計画に参加し、独自の実験棟や物資補給機、宇宙飛行士の派遣を中心に、2024 年までその運用に参加することになっているが、その後の運用とともに宇宙探査 (宇宙科学探査、有人宇宙活動) をどうするか。2018 年 3 月には、世界各国の閣僚や宇宙機関のトップらが今後の宇宙探査について話し合う「第 2 回国際宇宙探査フォーラム」(ISEF2) が東京都内で開催された。それに向け、日本の宇宙政策推進体制として、内閣府宇宙政策委員会や文部科学省宇宙開発利用部会国際宇宙ステーション・国際宇宙探査小委員会などにおいて議論が行われた。そして現在、国際的な宇宙探査の枠組みや内容が少しずつ決まっていく中で、日本の政府や民間で議論が続いている。これまで日本は、宇宙探査に年間予算 500 億円 (内訳: 宇宙科学探査 150 億円、有人宇宙活動 350 億円) を費やしてきた。また、その宇宙探査を一国単独あるいは国際協力で行うか、有人あるいは無

	<p>人で行うかなどの論点が存在してきた。2025 年からの 10 年程度、日本は ISS の運用と宇宙探査(宇宙科学探査、有人宇宙活動)をどうするかについて、宇宙政策、科学技術イノベーション政策、公共政策として、科学技術的、政治外交的、安全保障的、経済的、倫理的・法的・社会的観点などから総合的に検討する。</p>
キーワード	<p>宇宙政策、公共政策、有人宇宙活動、宇宙産業、民間宇宙ビジネス、政府と民間の役割、国際協力</p>
使用言語	<p>日本語／英語</p>

B-3 医療	
テーマ	<p>持続可能な医療政策～エビデンスベースドポリシーの実現を目指して</p>
概要	<p>人口と経済の構造を視野に入れつつ、2030 年までに持続可能な医療制度を目指すためには、どのような政策が現実的か、国の医療経済と医療研究のエビデンスベースドポリシーの実現を提案する。高齢者の増加に伴い、日本の医療費は大幅に増えている。財政赤字及び人的資源の制約ある医療を持続可能なものにするためには、先ず医療コストシェアリングなどによって、患者(医療受容者)の医療利用法を変える必要がある。他方、医療を開発・提供する側の医学研究が社会に与えるインパクトを患者・家族・納税者の立場から予測し、研究と実践の優先順位を対費用効果などで選択する必要もある。但し、その根拠がエビデンスに基づいていないと、ELSI(倫理・法・社会)的には成り立たない。本グループでは、国民の理解と協力も視野に入れて、医療依存率を削減し、医療提供者と研究者の対費用効果を上げる持続可能な医療政策を立案する。</p>
キーワード	<p>後期高齢者の経済状況、認知症、退院支援、医療コストシェアリング、医療依存率への経済的インセンティブ、持続可能な医療保険制度、ELSI(倫理・法・社会)のエビデンス</p>
使用言語	<p>日本語／英語</p>

B-4 ELSI	
テーマ	<p>イノベーション政策における ELSI・ガバナンス課題の検討—新たなバイオテクノロジーの社会導入を事例に</p>
概要	<p>現在、内閣府の総合科学技術・イノベーション会議・バイオ戦略検討ワーキンググループでは、「バイオ戦略」(バイオテクノロジーによるイノベーションを促進する上での課題及び戦略)の策定に向けて議論が行われている。本グループでは、上記戦略の内容をふまえ、実際にその戦略を個別の政策や研究に落とし込んで実行していく際に、社会によりよい形で導入する</p>

	うえで、研究開発の段階から市場化までの一連の流れの中で必要となる ELSI (Ethical, Legal, Social Issues) / Governance に関する事項について検討を行い、効果的な政策のあり方について議論する。特にゲノム編集や合成生物学に焦点を置き、それが適用される多様な分野—医療、環境、農・食品などの中から、必要に応じて具体的事例を取り上げながら議論する。なお、グループ決定後に参加者の属性や関心等を踏まえて、内容を少し変更する場合がある。
キーワード	バイオテクノロジー、ELSI、リスク・ベネフィット、ガバナンス
使用言語	日本語

B-5 子どもの安心	
テーマ	児童虐待の根絶—科学技術に何ができるか
概要	厚生労働省『児童虐待の現状』によれば、児童虐待相談対応件数は児童虐待防止法施行前の平成 11 年度に比べ、平成 24 年度は 5.7 倍に増加し、66,701 件に達した。虐待による児童の死亡件数は高い水準で推移しており、平成 23 年度は 56 例、58 人を数えている。法制度の整備によっても歯止めがかからず、年々深刻化するこの社会問題に対して、科学技術はどのような解法を提起し得るのかを考える。
キーワード	児童虐待、幼児虐待、児童虐待防止法、ネグレクト、虐待死
使用言語	日本語

B-6 SDGs	
テーマ	SDGs と科学技術・イノベーション (STI)
概要	本グループでは SDGs の本来の目的、その中で STI がどのように SDGs 達成に貢献しているのかを概観する。STI は SDG の達成に大きな役割を果たすことは広く認識されつつあるが、各ゴールのアクションプランや目的指標へ STI の貢献が具体的に明記されているケースは未だ限られた分野にとどまっている。ここでは SDGs に関わる概念や今まで経緯を整理しながら、どのようにしたら将来的に STI が SDGs により貢献できるかを検討する。その際、SDGs の観点から既存のイノベーション・コンセプトも概観する。
キーワード	持続可能な開発のためのゴール、科学技術イノベーション、インクルーシブ・イノベーション、破壊的イノベーション、フルーガル・イノベーション、ミレニアム開発ゴール
使用言語	日本語／英語

グループ C 科学技術イノベーションの分析	
グループ C -1 データ	
テーマ	データで解析する科学技術イノベーション
概要	データに基づいて特定の科学領域の現状を把握した上で、今後の展望について最終的にプロポーサル（戦略提言）を纏める、というデータドリブンの戦略立案を体験する。各種科学技術に係る様々なデータ（科研費などのファンドと、論文、特許など）を接合した分析と、それらに基づく考察・戦略立案を行う。具体的なテーマは学生が設定する。
キーワード	データ分析
使用言語	日本語／英語

以上